

# 複式学級担任の手引



平成31（2019）年3月

栃木県教育委員会

# 目次

はじめに

1 複式学級とは	1
2 複式学級における学習指導	5
3 複式学級における学習指導方法の工夫・改善	12
4 参考資料	
(1) 平成30年度複式学級担当教員研究会 研究授業指導案（日光市立足尾小学校）	
・【指導事例1（学年別指導事例）】第5・6学年 算数科	16
・【指導事例2（同単元同内容同程度指導事例）】第3・4学年 道徳科	22
(2) 平成29年度複式学級新担任教員研究会 研究授業指導案（矢板市立西小学校）	
・【指導事例3（同単元同内容異程度指導事例）】第3・4・5学年 体育科	24
(3) 平成28年度複式学級新担任教員研究会 研究授業指導案（壬生町立藤井小学校）	
・【指導事例4（同単元同内容異程度指導事例）】第1・2学年 生活科	28
(4) 平成27年度複式学級新担任教員研究会 研究授業指導案（鹿沼市立粕尾小学校）	
・【指導事例5（同単元同内容同程度指導事例）】第3・4学年 音楽科	31

## はじめに

へき地の学校や複式学級をもつ学校及び分校におきましては、日頃から地域の特色や、小規模校ならではのよさを生かしながら、教育活動の充実・発展に努められていることに対しまして深く感謝申し上げます。

現在、我が国では、少子化やグローバル化等の急速な進展により、児童生徒を取り巻く社会的な環境が大きく変化しており、予測が困難な時代となっています。このような時代背景を踏まえ、平成29（2017）年3月に小・中学校学習指導要領が改訂されました。今回の改訂においては、これからの学校には児童生徒が未来社会を切り拓くために、必要な資質・能力を確実に育成していくことがより一層求められており、社会と連携・協働する「社会に開かれた教育課程」を実現し、教育活動を充実させることが重視されています。

このような中、へき地の学校、複式学級をもつ学校、分校の特性を踏まえ行われている一人一人を大切にした教育や、地域の人材・自然・歴史などの教育資源に恵まれている環境を活用し地域とともに歩む教育は、これからますます重要になってくると考えられます。

県教育委員会といたしましても、へき地・複式・分校教育の重要性に鑑み、その充実、振興を期して、今年度、本資料を作成いたしました。なお、資料の作成に当たっては、複式学級の特性や指導に関する基本用語、学習指導方法等につきまして、複式学級を新たに担任する教諭等に理解いただいた上で、日々の実践に役立てられるよう配慮しました。

各学校におかれましては、これらの趣旨を十分理解され、本資料を活用いただき、へき地・複式・分校教育のなお一層の推進と充実を図り、複式学級の児童が心豊かに学び、これからの時代を切り拓いていくための一助となりますことを期待いたします。

むすびに、本資料の作成に当たり、御協力いただいた関係者の方々に心から感謝申し上げます。

平成31（2019）年3月

栃木県教育委員会事務局学校教育課長

中 村 千 浩

# 1 複式学級とは

## (1) 複式学級の定義

複式学級とは、国の定める学級編制基準に照らして、児童又は生徒数が少ないために一つの学年の児童又は生徒だけでは学級の編制ができない場合に、同一学級に2個学年を収容して編制する学級である。これに対して、同学年の児童又は生徒で編制する学級を単式学級という。

## (2) 複式学級の編制

複式学級の法的根拠としては、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（昭和33年法律第116号）」に以下のように示されている。

第三条 公立の義務教育諸学校の学級は、同学年の児童又は生徒で編制するものとする。ただし、当該義務教育諸学校の児童又は生徒の数が著しく少いかその他特別の事情がある場合においては、政令で定めるところにより、数学年の児童又は生徒を一学級に編制することができる。  
（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（昭和33年法律第116号））

複式学級の編制については、各学校における同学年の児童生徒数による。一学級の児童又は生徒の数の基準は、同法律第三条第二項に、「公立小・中学校及び義務教育学校の一学級の児童又は生徒数を標準として、都道府県の教育委員会が定める」と示されている。

栃木県教育委員会では、この基準を受け、以下の「学級編制基準」（表1）を定めている。

（表1）

平成31（2019）年度 学級編制基準		
1 小学校・義務教育学校（前期課程）		
学級編制の区分		全市町
単式学級	第1学年	35人以下
	第2学年	
	第3学年	
	第4学年	
	第5学年	
	第6学年	
2個学年 複式学級	・第1学年の児童を含む場合	8人以下
	・第1学年の児童を含まない場合	16人以下
特別支援学級		8人以下
2 中学校・義務教育学校（後期課程）		
学級編制の区分		全市町
単式学級	第1学年	35人以下
	第2学年	
	第3学年	
特別支援学級		8人以下

小学校及び義務教育学校前期課程（以下、小学校とする）では、第1学年の児童を含む場合、2個学年の児童数の合計が9名以上であれば、それぞれの学年が単式学級となるが、8名以下であれば複式学級となる。また、この編制は、例えば第1学年と第2学年のように引き続く2個学

年での複式学級となったり、第2学年が欠学年となっていれば、第1学年と第3学年のように離れた学年での複式学級となったりする場合がある。

第1学年の児童を含まない場合には、2個学年の児童数の合計が、16名以下の場合に複式学級が編制される。複式学級の学年の組み合わせについては、様々な組み合わせがあり、以下に示した表2は、その代表的なものである。

(表2)

	学年の組み方							学級数	備考
	学年	1	2	3	4	5	6		
欠学年がない場合	人数	4	4	7	6	5	10	3学級	完全複式
	①	複式		複式		複式			
	人数	7	8	9	6	7	7	4学級	一般的な編制
	②			複式		複式			
	人数	6	9	8	5	10	7	5学級	
	③			複式					
人数	7	6	5	7	9	8	4学級	変則複式	
④		複式		複式					
あ欠る学年の場合	人数	3	0	4	6	9	8	3学級	変則複式
	⑤	複式			複式				
⑥	人数	6	5	4	0	6	7	3学級	変則複式
	⑥		複式			複式			

また、複式学級の編制に当たっては、教育課程等を勘案した上で、表3の①のように、下の学年から編制したり、②のように上の学年から編制したりすることができる。

(表3)

	学年の組み方							学級数	備考
	学年	1	2	3	4	5	6		
2とおのり	人数	6	4	10	4	6	6	4学級	下の学年から編制した例
	①		複式		複式				
②	人数	6	4	10	4	6	6	4学級	教科等を勘案し、上の学年から編制した例
	②			複式		複式			

### (3) 複式学級における教育課程編成

複式学級では、2以上の学年（2個学年）の児童で学級を編制する関係上、各教科等の学年別の目標や内容をそのまま学年の順序で指導できない場合がある。そこで、複式学級における教育課程の編成について、小学校学習指導要領（平成29年告示）第1章総則第2の3「教育課程の編成における共通的事項」では、以下のように示している。

オ 学校において2以上の学年の児童で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科及び道徳科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

学年別の順序によらないことができるのは、複式学級において「必要がある場合」で、「各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内」に限られていることに留意する必要がある。

**(4) 教科書の給与について**

義務教育諸学校の教科書の無償措置に関する事務処理について（抄）（昭和41年1月6日初管第81号 各都道府県知事 教育委員会義務教育諸学校を設置する各国立大学長宛て、文部省初等中等教育局長通知）には、複式学級等の児童生徒に対する他学年用の教科書の併給について、「複式学級等において、教科により、特別の教育課程を編成し、児童生徒の所属学年用の教科書および児童生徒の所属学年以外の学年用の教科書を併せ使用する場合には、昭和41年度からは、最初の学年において、その他学年用の教科書をも給与して差し支えないこと」とある。

複式学級の特別な給与方法としては、次のような場合が考えられる。

① 2個学年以上の児童が各学年用の教科書を併せて使用して授業をする場合

例えば、小学校第5学年と第6学年の児童による複式学級の学級編制の下で、1年間で第5学年用と第6学年用の教科書を併せて使用する場合、第5学年の児童には、第5学年と第6学年の教科書を給与することができる。

② 児童が、所属する学年の教科書に代えて、その他の学年用の教科書のみを使用する場合

例えば、小学校第3学年と第4学年の児童による複式学級の学級編制の下、第3学年と第4学年の内容を1年ごと、交互に学習する教育課程を編成している場合、第4学年の内容を学習するその年に、その学級に在籍している第3学年には、第3学年用の教科書に代えて、第4学年の教科書を給与することができる。

ただし、原則として、一度給与を受けた教科書を再給与することはできない。また、複式学級とはならない2個学年が、合同学習で授業を行う場合においては、この規定は当てはまらず、該当学年以外の教科書の給与を行うことはできない。

**(5) 複式学級の特性と学級経営の在り方**

複式学級には、次のような特性がある。

- ・ 学年の枠を超えた生活集団である。
- ・ 異学年で構成されている学級である。
- ・ 2個学年の児童によって編制されている学級であるため、単式学級の構造が「横の関係」で成り立っているのに対し、複式学級は、「縦の関係」で成り立っている。
- ・ 学年の組み合わせにより、学級の構成人数が毎年変わることがある。

このような特性をもつ複式学級には、表4のような長所や課題が考えられる。

(表4)

長所と思われる点	課題と思われる点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人に目が届き、個々の児童に即した指導ができ、学習の個別化がしやすい。</li> <li>・ 学年を超えた生活集団を通して、理解し合った性格や能力に応じて個人が位置付けられる。</li> <li>・ 異年齢同士の協力的な態度を養いやすい。</li> <li>・ 一人一人の存在感や役割をもたせやすく、リーダーとして活躍できる場が多い。</li> <li>・ 児童同士や児童と教師とのふれあいの場を多くもつことができ、温かい雰囲気が醸成されやすい。</li> <li>・ 協力的な学習態度を育てやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年や性別により児童数の偏りがある。</li> <li>・ 児童の年齢や学年が異なるため、個々の能力差や、個人差が大きい。</li> <li>・ 相互交流の相手が限定され、学習の場面で多面的に考えながら議論をすることが難しい。</li> <li>・ 多様な考え方に触れる機会が少なく、活発な討議がなされにくい。</li> <li>・ 大きな集団での社会的な経験の場や機会があまりないため、社会性が育ちにくい傾向がある。</li> <li>・ 少人数のため、教師が手厚く指導、支援しすぎてしまう傾向がある。</li> </ul>

複式学級における学級経営を行うに当たっては、まず、学級内の児童が少人数であることを生かしたい。人数が少ないことから、児童同士や教師と児童との直接的なふれあいの場を多くもつことができる。この利点を最大限に生かして、児童一人一人に対する一層の理解に努め、指導に反映させていくことが大切である。

次に、異学年で学級が構成されていることを生かしたい。異学年構成による集団生活の中で、上の学年と下の学年が互いに協力していくことを大切にした学級経営を心掛けたい。下の学年では、上の学年に学び協力していく態度を育成する。上の学年では、下の学年に配慮できるリーダーとしての姿勢を育むことを大切にする。また、異学年構成でも一つの学級として両学年を育てる視点に立った共通の学級経営目標や指導の手立てを設定する必要がある。

## (6) 複式学級の学習指導について

複式学級の学習指導過程は、単式学級の学習指導過程と本質は同一である。単式学級と異なるのは、複数学年の児童を同時に指導しなければならないということである。また、極少人数学級では、人数が少ないために起こる学習の制約もあるので、複式学級における学習指導では、複数学年の児童を指導していくために、指導内容の組み合わせを考慮したり、指導方法の工夫が必要になったりしてくる。

通常、複式学級の学習指導過程は、教科の特質、児童の実態や授業のねらいに沿った基本的パターン化が図られているが、その際、次のような基本的な捉えが必要である。

- ・ 教師が教え込むという立場でなく、児童自らが学んでいく立場から学習指導過程を組むようにする。
- ・ 2個学年の学習内容を分析し、類似内容指導、同内容指導が可能な部分を明確にする。
- ・ 一斉指導に終始することがないように少人数指導の学習形態や資料、教材、教具を工夫し、一人一人が意欲的に学習に取り組めるようにする。
- ・ 学習の進行に必要な約束を明確にして、複式指導の中でも児童だけで学習を進められるように学び方を定着させる。

## (7) 小規模校における小中一貫教育について

小規模校において、互いに切磋琢磨するための自信や向上心、コミュニケーション力、及び将来自立した社会人になるためのたくましさを育てていくために、小・中学校の教員が義務教育9年間の連続性を意識して日々の指導を行ったり、学校と地域との連携を更に充実させたりしていくことが、重要である。そのためには、小・中学校の児童生徒間や教職員間をつなぐ取組として小中一貫教育の推進、及び学校と地域をつなぐ仕組みとしてコミュニティ・スクールの設置が考えられる。

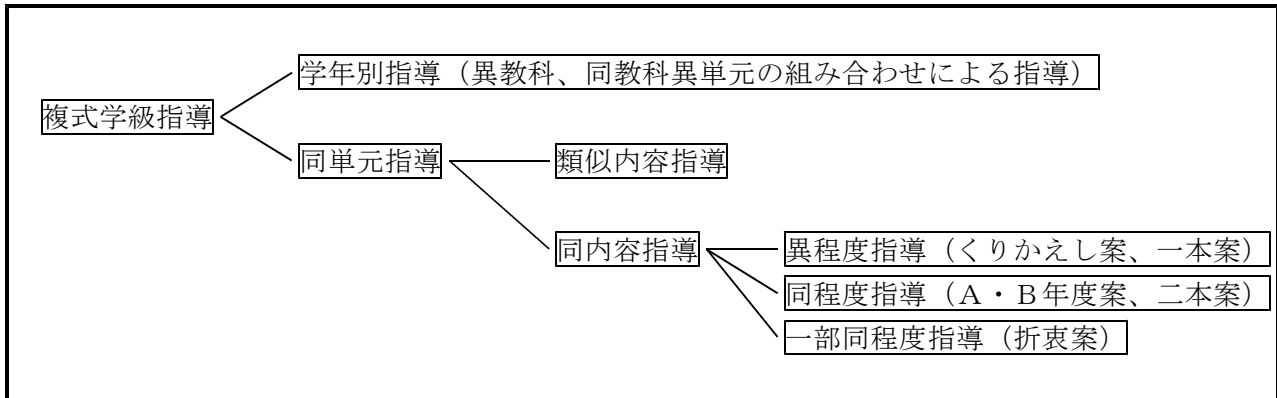
小中一貫教育の導入においては、9年間のグランドデザインや教育目標の明確化、教育目標に即した教科等ごとの系統的な教育課程・年間指導計画の編成等が必要である。ただし、小中一貫教育を実施する上で重要なこととして、小中一貫教育は、よりよい教育を実現するための「手段」であって、「目的」ではないことに留意する必要がある。

## 2 複式学級における学習指導

### (1) 複式学級における学習指導の類型

複式学級における学習指導の類型について、「単元」、「内容」、「程度」の三つの観点から表5のように整理することができる。

(表5)



#### ① 学年別指導

上の学年と下の学年の児童に、それぞれ別の教科、あるいは同じ教科でも異なる内容を指導する。この場合、教師は、それぞれの学年の児童に異なる内容を指導するので、一つの学年に指導している間は、他の学年の児童は自主的に学習を進めていく必要がある。

#### ② 同単元指導

2個学年を同じ単元（教材）によって指導する。原則的には隣接する2個学年の少人数の児童で編制されているという複式学級の形態を生かし、指導の効率化、深化を図り、児童の協力的学習を促すことを重視し、共通するねらいをもった学習内容を組み合わせて同時に指導することである。

##### ア 同単元類似内容指導

2個学年の児童に対して類似の内容を指導する。例えば、算数科において「特徴や傾向を調べること」は、第3・4学年で共通で学習する内容である。そこで、第3学年の児童に、「表と棒グラフ」、第4学年の児童に「表と折れ線グラフ」を指導することがある。こうした指導では、学級内の児童が同じような問題に取り組むので、好ましい雰囲気をつくることができる。また、前述の複式学級の特性を生かすことも可能であるが、一方ではそれぞれの学年において類似する内容をうまく組み合わせるといった工夫も必要となる。

##### イ 同単元同内容指導

2個学年の児童に対して同一内容を指導する。これは、指導の目標と内容の同一性を追究したもので同内容指導といわれる。この指導は、単式学級での指導に近いものがある。同内容指導を行う場合、学年の違いによって、実現すべき目標の程度を変えることがある。これを、「同内容異程度指導」と呼称している。これに対して、学年の区別をしないものを、「同内容同程度指導」と呼称している。



(ア) 同単元同内容異程度指導（くりかえし案、一本案）

本指導は、くりかえし案、又は一本案とも呼ばれる。この指導は、上下両学年とも同じ教材（単元）を扱う場合に行われる。この場合、単元は同じであっても上下両学年それぞれの指導目標を達成できるように、学習内容や程度を変えて指導計画を作成する必要がある。つまり、その教科の同じ領域や分野の教材をできるだけ学年ごとに同じ指導時間に対応させて配列し、2年間を単位にして関連のある教材によって、上下学年が同じような学習活動が展開できるように指導計画を作成する。例えば、体育において、第5学年のマット運動「回転技」と第6学年のマット運動「倒立技」の指導を行う場合などが考えられる。

◎ 長所

- ・ 児童の学習経験や生活経験の差に応じた指導を計画的に進めることができる。
- ・ 同一年度内に当該学年の内容を学習し、目標を達成できるので、複式学級の編制が年度ごとに変わっていくような学校では、対処しやすい。
- ・ 教材研究を系統的、発展的に行うことができる。
- ・ 上下両学年共通の話合いの場面が多くなり、学級としての一体感が生まれ、多面的な考え方や言語表現力も育成しやすい。

△ 短所

- ・ 程度の差を付けて学習する部分があることから、その部分だけが大きく取り上げられ、別々の内容を学習することになり、完全な学年別指導になりやすい。
- ・ 両学年の学習目標に差があるために、指導が下の学年に偏ったり、人数の多い学年に偏ったりしがちになる。
- ・ 系統性の強い教科では、教材の選択や組み合わせ方が難しく、単位時間の指導では共通指導場面を設定するために、深い教材研究を要するなど、指導計画の作成に難しさがある。

◇ 留意点

- ・ 単元名だけを同じにして、内容が異なる領域、分野を取り上げるようなことがないように留意する。
- ・ 年間指導計画の作成に当たっては、各学習指導要領及び解説に示されている系統性や内容に留意して作成する。

(イ) 同単元同内容同程度指導（A・B年度案、二本案）

本指導は、A・B年度案、又は二本案とも呼ばれる。上下両学年の内容をA年度（第1年次）とB年度（第2年次）の2年間に平均的に配分し、いずれの年度においても、両学年が同時に同じ内容を同じ目標の下、同程度に指導しようとする案である。2年間を単位として学習が完結するよう年間計画を作成する。

例えば、第3・4学年で複式学級を編制した場合、第3学年が第4学年の内容を学習したり、逆に第4学年で第3学年の内容を学習することもある。これは、学習指導要領総則第2の3の規定（2以上の学年の児童で編制する学級についての特例で、支障のない範囲内で学年別の順序によらないことができること）によるものである。

◎ 長所

- ・ 上下両学年が同時に同内容の学習を同程度に進めるため、複式であっても単式的な指導ができ、直接指導や間接指導の煩わしさがなくなり、能力差に応じた指導をしやすい。

- ・ 年間の指導計画の作業が一元的になり、教材研究や指導の準備など、まとまった観点から行うことができる。
- ・ 両学年で相互学習や協力的な学習が進められ、好ましい人間関係を醸成できる。

#### △ 短所

- ・ 系統的な指導、特に技能的な面の指導において困難が伴い、その徹底が図りにくい。例えば、第3・4学年の学習を終えて、第5・6学年の複式学級に進む場合、第4学年の内容を終えてすぐに第6学年の内容を学習することもあり得る。
- ・ 下の学年の児童には、経験差を埋める手立てを講じたり、上の学年で使用する用語や記号、漢字等への抵抗を緩和したりする必要がある。
- ・ 2年間で指導内容が完結するため、児童数が安定せず複式学級の編制が年ごとに変動するような場合には、この指導法で計画を組むことができない。
- ・ 転出入者の履修漏れになる可能性があるため、配慮が必要である。

#### ◇ 留意点

- ・ 一方の年度に難しい内容や易しい内容が偏ることのないよう、学習内容の難易度を考え、両年次に平均的に配列する。
- ・ 学習内容の領域、分野、ジャンルを両年次に平均的に配列する。例えば、理科において、A年度に「A物質・エネルギー」が多く、B年度に「B生命・地球」が集中しているということのないよう十分注意し、バランスよく配列する。
- ・ 児童の発達の段階に即応しながら、学習内容の系統を乱さぬよう、学習の系統に十分配慮する。

#### (ウ) 同単元同内容一部同程度指導（折衷案）

本指導は、一本案と二本案を組み合わせる指導する方法で、折衷案とも呼ばれる。一本案を主体に、一部二本案を取り入れた指導計画、又は二本案を主体に、一部一本案を取り入れた指導計画を作成する場合があります、それぞれの長所を生かしながら短所を補う指導方法である。

例えば、二本案を主体とした場合、両学年の学習の中で特に重要で、しかも反復練習等が必要なものは二年間繰り返して指導し、理解が容易なものはA・B両年度に配分する方法がある。

#### ◇ 留意点

- ・ 折衷案の年間指導計画を作成する場合、一本案と二本案を組み合わせるため一般的に複雑な計画となることから、未履修等がないように留意する。
- ・ 基礎的な内容について繰り返して指導することにより、知識・技能の習得を図ることができる一方、上の学年にとって同じ学習の繰り返しになることで意欲が喚起しにくいいため、授業における指導の工夫が必要である。

## (2) 直接指導と間接指導

複式学級で学年別指導計画によって指導する場合、教師が一方の学年を指導している間、他の学年の児童は、自学自習の学習形態をとることになる。この場合、前者を「直接指導」、後者を「間接指導」という。

### ① 直接指導の位置付け

複式学級の学習指導では、間接指導において児童が自主的に学習活動が行えるように、直接指導においては制約された時間の中で効率的な指導を行う必要がある。直接指導では、次のような位置付けが考えられる。

- ・ 自主学習を成立させる契機とし、そのために指導内容を精選し、学習の方法、条件を整え本時の学習課題を明確にする。
- ・ 自主学習を支えるため学習の基礎となる内容を、確実に定着する場とする。
- ・ 自主学習や習得したものの定着・発展の場での児童の学習を確認し、認め賞賛し、間接学習への意欲付けの時間とする。

## ② 間接指導の位置付け

間接指導は、一方の学年を直接指導している間に、他の学年に対して児童のみで学習が進められるように、指示や示唆を与えておいて行われる指導であり、次のような位置付けが考えられる。

- ・ 直接指導を受けて、学習のねらいに迫る自主学習の中核的な学習過程とする。
- ・ 自主性を養う機会と捉え、課題解決のための自主学習の時間とする。
- ・ 学習技能（学び方）の定着に力を入れ、主として各個人がじっくりと考える自力解決による学習時間とする。
- ・ 学習技能（学び方）の定着に力を入れ、主として小集団での学習活動の時間とする。
- ・ 学習のフィードバックと、次の直接指導につながる準備学習の時間とする。

## (3) ガイド学習

ガイド学習とは、間接指導をより充実させるために行われる小集団学習の形態である。学習集団の中から決めたガイド役の児童が、教師との話合いや教師の指導の下に立てた学習進行表に沿って授業を進める。この学習は、ガイドを中心に児童がお互いに協力して学習を進めることで、間接指導の質を高めることをねらいとしている。また、ガイド学習は、間接指導を効果的に進めるだけでなく、児童一人一人が認め合うことで集団意識を高め、社会性を育てることや、学習の手順やねらいをお互いに確認した上で学習を進めることで、主体的な学習態度を養うことを目指している。ガイド役として次のような役割が考えられる。

- ・ 学習の準備を確認する。
- ・ 学習の進行をする。
- ・ 学習のきまりを確認する。
- ・ 学習のまとめを確認する。

なお、ガイド学習を行う初期段階は、リーダー性のある児童をガイドにすると学習が進めやすいが、ガイドについては固定せずに、児童の発達の段階に応じて、全ての児童がガイドとしての役割を果たせるように経験を積ませたい。このような学習を通して、学級が、より協力的で主体的に学ぶことのできる集団となるようにする。また、児童の実態や発達の段階に応じて、以下の表6のようなガイド役の児童の姿を目指しながら指導を進めていきたい。

(表6)

低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習進行表に従って進めることができる。</li> <li>・ 公平に指名することができる。</li> <li>・ これから行う学習活動を他の児童と確認しながら進めることができる。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な意見を整理し、おおまかにまとめることができる。</li> <li>・ 反対意見や補足意見を大切にすることができる。</li> <li>・ 学習したことを簡単にまとめることができる。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な意見を整理し、同じ考えはどれか、異なる考えはどれか、どのようなことが問題点になっているのかなどが判断できる。</li> <li>・ 話合いの内容を自分の言葉でまとめることができる。</li> </ul>

#### (4) 「わたり」と「ずらし」

##### ① 「わたり」の定義

学年別指導では、同じ時間に複数の学年を対象にして、異なる教材を指導することになる。この場合、直接指導と間接指導のバランスを考えながら、学習の成立を図る必要がある。その場合、教師は、直接指導と間接指導の組み合わせにしたがって、一方の学年から他方の学年へと交互に移動して、直接的に指導することになる。これを「わたり」という。また、「小わたり」といって、間接指導の学年にも時々目を配りながら時には声掛けをする場合もある。

##### ② 「わたり」における配慮事項

- ・ 間接指導時の学習の充実を図る。

間接指導となった学年が、自主的・積極的に学習が続けられるように、普段から一人一人の学習状況を丁寧に把握し、間接指導の学習活動を予測するとともに、学習の仕方を身に付けさせることが大切である。

- ・ 間接指導の学年の学習状況の把握を工夫する。

次の段階の直接指導を効率的にするために、一方の学年の直接指導をしながら、他方の学年の間接指導時の学習状況が把握できるように板書させたり、ホワイトボードにまとめさせたりするなどの工夫が大切である。

- ・ 児童に見通しをもたせる。

児童に大まかな1単位時間の学習の流れ（学習指導過程）を把握させ、見通しをもたせる。また、児童に教師と学習する場面（直接指導）と児童だけで学習する場面（間接指導）を理解させる。

##### ③ 「ずらし」の定義

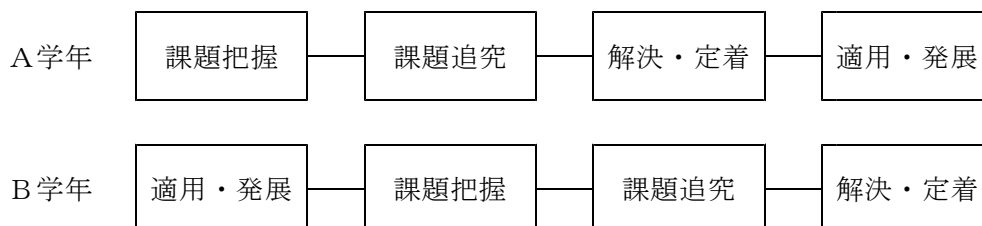
2個学年を交互にわたり歩いて、直接指導と間接指導の内容を充実させ、学習活動を無理なく効率的に行うようにするには、どうしても指導段階を学年別にずらした組み合わせが必要になる。この組み合わせを「ずらし」という。

##### ④ 「ずらし」における配慮事項

「ずらし」を運用する場合は、ただ単に形式的な捉え方をするのでなく、その内容的な意味付けを十分に行い、指導の効率化と学習の深化を図るように工夫したり、指導の重点をどこに置くかを明確にすることが大切である。なお、「ずらし」は「わたり」と表裏一体の関係にあるので、「わたり」の留意点はそのまま「ずらし」の留意点でもある。

「ずらし」の類型としては、次のようなものが例として挙げられる。

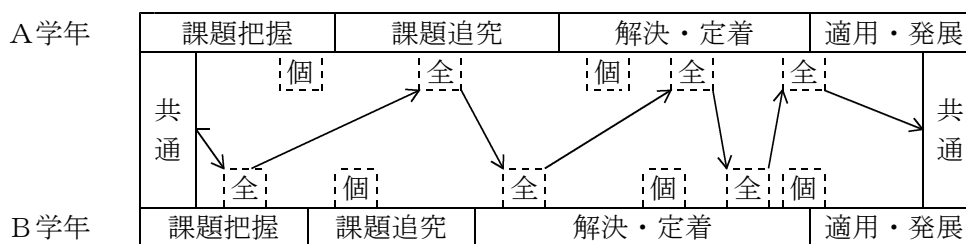
##### ア 段階ごとの「ずらし」



この型は、導入段階で共通指導場面を設定できないという課題がある。そのため、B学年においては、前時で解決・定着した内容をもとに、本時の導入段階で適用・発展することになるので、前時の学習内容を本時の学習内容へつなぐ手立てが必要である。つまり、前時の「解決

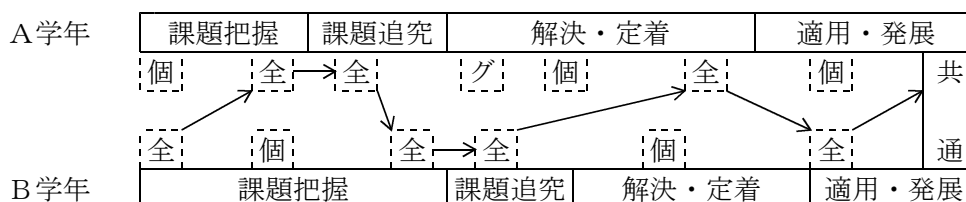
・定着」の段階で定着の度合いを確実に把握する取組を行ったり、前時に学習した内容を教室に掲示し、本時の学習に活用したりするなどの手立てを行う。

#### イ 段階内の「ずらし」



この型は、各段階を半分ずつずらして組み合わせたもので、導入段階（「課題把握」）と整理段階（「適用・発展」）に共通指導場面を設定している。同時導入では、各学年のねらいに適した共通課題を設定する。また、同時終末では、学習の成果を両学年で交流することができる。

#### ウ 導入における「ずらし」



この型は、導入段階で片方の学年に力点をかけたもので、整理段階（「適用・発展」）に共通指導場面を設定している。同時終末により、本時の学習内容を振り返りまとめることができるとともに、次時への見通しをもたせることができる。これにより、学習集団としての一体感を生み出すとともに児童の学びに対する意識を持続させることができる。

### (5) 合同学習（合同授業）

2学級以上の児童と一緒に学習することを「合同学習」という。へき地・複式・小規模校では少人数での教育活動が多くなるが、一つの学級内に閉じこもった教育活動に終始していると、教育効果の上がりにくい活動がどうしても出てきてしまう。したがって、合同学習を実施し、集団での活動を楽しませたり、集団の中で考えを練り合わせ、思考力を伸ばしたりすることは、重要である。合同学習が実践されている教科としては、体育科でのゲームなどチームプレーを必要とする活動、音楽科での合奏・合唱、図画工作科での共同製作、生活科での人との関わりに関する学習などの例が多い。また、「特別の教科 道徳」や他の領域でも、多様な意見を出し合い、議論を深める活動を行う際に、合同学習が実践されている。

合同学習の実施に当たっては、ねらいを明確にし、各教科等だけでなく学校経営全体計画への位置付けを行う。また、学習効果を高めるために各学級担任との指導体制を整え、主担当を中心に複数の教師が協力して授業を進める。さらに、教師は、児童一人一人の実態を的確に捉え、学年差や個人差等を考慮しながら指導に当たる必要がある。

### (6) 集合学習（集合指導）

近隣の2校以上の児童を一か所に集めて、各学校の教師の協力によって行う教育方法を「集合

学習」という。これは、友人関係の広まりや話合いの内容の深まり、集団活動の楽しさやチームワークの素晴らしさを味わうことなどを目的として行われている。

集合学習では、2校以上の児童が共同で行う学習活動（全習）と、各学校での事前事後の学習活動（分習）があるが、集合学習の効果を上げるためには、分習を的確に実践することが重要である。この場合、各学校間の指導計画における指導目標、指導内容、授業時数などの位置付けと、技能的な学習内容の習得過程との関連などで、共通理解を図っておく必要がある。

## (7) 交流学習

学校規模や生活環境の異なる学校同士が、姉妹校的な関係を結び、それぞれの学校独自では体験できない学習や生活をさせる教育方法を「交流学習」という。交流学習は、学校の規模にかかわらず行われているが、へき地・複式・小規模校では、へき地性克服という観点で従来から積極的に進められている学習である。

実践されている内容については、近隣の学校と自然教室などの学校行事を合同で行ったり、手紙や電子メールの交換、あるいは相互訪問を行って互いのよさを学んだり、特別支援学校と交流を図り、障害のある児童とのふれあい活動を行ったりするなどが例として挙げられる。これらの活動を行うことで、学校全体が活性化し、児童が幅広い体験を得て、視野を広げることが期待できる。

交流学習を行う際は、お互いに日常では得られないものを相手から吸収すべく、ねらいを明確にするとともに、大勢の前で自分の意見を述べさせるなどの刺激を与える「経験を豊かにさせる場」、お互いが相手の立場を思いやれるようになるための「豊かな人間形成のできる場」として捉えていくことが重要である。

### 3 複式学級における学習指導方法の工夫・改善

#### (1) 課題把握の段階における指導の充実

複式学級の学習指導では、「課題把握」の段階で本時の学習課題の解決に向けた方向付けを行うことが、間接指導での活動を成立させる上で重要となる。そのためには、問題提示後、結果を予想させたり、解決の方法や手立てを考えさせたりする見通しの段階を充実させることが大切である。そして、児童に本時のめあてを設定させ、学習課題の焦点化を図るよう工夫する。

#### (2) 間接指導の充実

間接指導における学習時間を児童自らが課題を追究し発展する時間、協力して学習し理解を深める時間、個人の能力に応じて補充・深化の学習を行う時間にするなど、児童一人一人が主体的に学習できる時間として位置付けられるよう、また直接指導との関連を図り、間接指導での学習が直接指導の中で十分生かされるように指導過程を工夫する。

このためにガイド学習等を導入したり、活動時間の明確化を図るためにタイマーを活用して時間を計ったりすることが考えられる。これらによって、児童にとっては時間内に作業を進めようとする見通しをもって取り組む意識が明確になり、教師にとってはどちらかの学年に指導が偏ってしまうことを防ぐことができる。

#### (3) 発問の工夫

複式学級における学習指導では、単式学級における指導時間よりも直接指導の時間が制約されるので、発問を精選するなどの工夫が必要である。その場合、次のような視点や配慮事項が考えられる。

##### ① 主体的に取り組む態度を育てる発問の視点

- ・ 簡潔、明瞭な発問であること
- ・ 児童の能力差に応じた興味・関心の度合いにあった発問であること
- ・ 授業のねらいに基づいた計画的な発問であること
- ・ 児童の学習状況に即応する発問であること
- ・ 一問多答になる発問であること
- ・ 児童の想像力を高める発問であること

##### ② 思考力・判断力・表現力等を高める発問の視点

- ・ 価値判断を求める発問であること
- ・ 意見や理由を求める発問であること
- ・ 原因、結果を踏まえ説明を求める発問であること

##### ③ 発問に対する配慮事項

- ・ 児童が考える時間を確保する
- ・ 児童の考えや意見を大切にする
- ・ 発問は多発せず、必要最低限に留める
- ・ 発問に対する回答を一部の児童だけに求めない

#### (4) ノート記入における工夫

複式学級の間接指導における児童のノート記入の内容は、教師が児童一人一人の考えを捉えるために特に重要な材料となる。ノートに書かれた取組の様子や考え方を基に、次の授業を展開したり、取組のよさを認めることで児童の学びの質を高めたりすることが大切である。

そこで、ノートには、日付、学習の目標、自分の考え、友達の考え、本時の振り返り等を書く

ように指導する。また、間違っただけの解答や不十分である考えもそのまま残し、大切にすることを伝える。このことにより、教師は間接指導の際の児童のつまづきが分かり、その後の指導に生かすことができる。さらに、児童にとっても自分の学習の課題を振り返ることができる好機となるので、低学年の段階から間違いを大切にすることを伝えていく。

#### (5) 黒板やホワイトボード活用の工夫

学習を進める際、児童は、黒板の板書内容で学習の見通しをもつことができる。そのために、児童が学習に見通しをもてる学習の目標や授業の流れを書いておくことが必要である。

また、間接指導において、児童の発表の様子や話合いの深まりを教師が把握するために、黒板に考えを出し合う際はどの児童の考えか分かるように記名させたり、付け加えた意見や反対意見をチョークで色分けして示したりするなどの工夫が考えられる。ホワイトボードについても、各自が自由に活用できるよう準備をしておき、記入内容や記入するときの約束を決めておくことも有効である。

#### (6) 教室における座席配置の工夫

同じ教室で2個学年が別々に学習し、一人の教員がその指導に当たる場合、一方の学年は前面の黒板、もう一方は教室の側面に移動黒板を用いて学習する。全面と側面を利用することによって、児童にとっては互いの学習が視界に入りづらく集中しやすい、ガイド役の声の干渉が避けられるというよさがある。教師の立ち位置は両学年の間とし、ガイド学習をする際は、児童の実態に合わせて後ろから見守るなど必要に応じて支援できるようにしておく。また、それぞれに教卓等を用意しておく、教材の提示やガイド用の席として利用できる。

#### (7) 情報機器活用の工夫

複式学級の学習指導において、ICTを活用することによって、児童の学習意欲を高めたり個に応じた授業の展開を工夫したりすることは大切なことである。

情報機器を活用した学習活動を充実させるためには、児童や教師が、あらゆる場所・教室でICTを活用した学習活動を行う際に、使用できる環境であることが求められる。そのためにも、校内のICT環境を整備することが重要である。

ICT環境には、学習者用コンピュータや指導者用コンピュータ、大型提示装置（大型テレビやプロジェクタ等）、校内LAN（有線及び無線）の確保などが挙げられる。各学校と設置者とが連携して、情報機器を適切に活用した学習活動の充実に向けた整備を進めるとともに、教室内での配置等も工夫して、日常的に活用できるようにする必要がある。

授業においてデジタル教科書や大型テレビを活用するに当たり、次のような場面が考えられる。

- ① 前時の振り返りや既習事項の確認
- ② 必要な知識の提示
- ③ 問題場面の提示
- ④ まとめの提示

また、タブレットを活用するに当たり、次のような場面が考えられる。

- ① 協働での意見整理
- ② 理解度の確認
- ③ 児童の解答の提示
- ④ 児童のデータの蓄積

さらに、インターネットやWebカメラを使ったテレビ会議システム等を活用することで、遠隔地の学校等と交流する機会をもつことができる。一方通行の発表ではなく、発表したことに対し



て質問を受け、それに答えることで思考が深まり、表現する際の工夫を図ることもできる。このような活動により対話や議論を通じて多様な考えに触れることで、集団として考えを練り合ったり発展させたりする協働的な活動を行うことができる。

## (8) 個に応じた評価の工夫

個に応じたきめ細かな評価を充実させるためには、児童一人一人の学習状況を丁寧に把握することが大切である。

### ① 評価方法

評価方法については、次のような方法が考えられる。

#### ア 発問による評価

直接指導の授業中に、問題の理解や学習の進め方、学習内容などが十分理解されているかどうかを具体的な質問によって確認する方法である。特に、課題把握段階や課題追究段階での評価として有効である。

#### イ 観察法による評価

授業のそれぞれの段階において児童の活動状況を観察し、行動や発言等を評価の資料とする方法である。全員を観察するだけでなく、特定の児童を観察したり、間接指導中に観察したりする方法が考えられる。

#### ウ 作品による評価

ノートや学習カード等も含めて学習の成果として残された作品を活用する方法で、学習後の自己評価や相互評価としても活用できる。

#### エ ペーパーテストによる評価

ペーパーテストは、児童の目標に対しての知識・理解や技能等の到達度を把握する上で効果的である。また、テスト実施後には結果分析を十分に行うことで、児童の実態を客観的に把握でき、以降の指導に役立てることができる。

#### オ 自己評価

学習の結果だけでなく、学習の過程についても視点を明らかにして自己評価させることは効果的である。特に、学習の進め方についての自己評価は学び方を定着させる上でも有効であると考えられる。また、自己評価を取り入れることによって学習により主体的に取り組もうとする意識を高めることができる。

#### カ 相互評価

互いのよさを認め合い、客観性を培う観点からも有効な評価方法である。しかし、小集団のため日頃の固定的な評価に陥らないよう、教師も相互評価に参加するなどの配慮が必要である。また、異学年で行う場合は、児童の発達の段階を考慮して視点を決める必要がある。

### ② 各学習指導形態による評価の留意点

複式学級においては、単式学級における評価の留意点に加え、次の点に留意するとともに、授業における様々な場面で行った評価を今後の指導に生かしていく必要がある。

#### ア 「わたり」による指導における評価の留意点

学年別の「わたり」による指導を行う場合は、間接指導の間、教師は児童の発言や行動

の観察を行うことが難しくなり、その時の評価は、ノートやワークシートへの記述を基にした評価が有効となる場合が多くなる。そのため、日頃からノートの記入指導を積極的に行い児童が間接指導の間に取り組んだことや、話し合いによる見方や考え方の変容を書かせるようにする。

イ 同単元同内容異程度（くりかえし案、一本案）指導における評価の留意点

同単元同内容異程度による指導を行う場合は、単元や内容が同じであっても、学年により程度（単元・題材の目標、本時の目標）が異なるため、学年ごとの評価規準を設定する必要がある。

ウ 同単元同内容同程度（A・B年度案、二本案）指導における評価の留意点

同単元同内容同程度による指導を行う場合は、同じ目標、評価規準のもとに授業が展開されることとなる。複式学級においては、単式学級以上に個人差の大きな異年齢集団であることに留意する必要がある。下の学年の児童は、単元によっては当該学年の目標及び内容ではなく、上の学年の目標及び内容で学習することがある。そのため、評価規準は同じであっても、一人一人の児童の取組状況を丁寧に捉え、評価し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

## 4 参考資料

(1) 平成 30 年度複式学級担当教員研究会 研究授業指導案（日光市立足尾小学校）

・【指導事例 1（学年別指導事例）】

### 第 5・6 学年算数科学習指導案

1 単元名 第 5 学年：形も大きさも同じ図形を調べよう

第 6 学年：文字を使って式に表そう

2 単元の目標(評価規準)

第 5 学年「形も大きさも同じ図形を調べよう」	評価の観点	第 6 学年「文字を使って式に表そう」
図形の合同の意味や合同な図形の性質などについて理解し、合同な図形をかくことを通して、平面図形についての理解を深める。		具体的な場面について、数量の関係を文字を用いて式で一般的に表したり、文字を用いた式から数量の関係を読み取って具体的な場面に表したりすることを通して、式を活用する能力を伸ばす。
合同という観点で、図形の性質を見直したり、対角線に着目してできる図形を捉えたりして、学習に生かそうとする。	【関心・意欲・態度】	文字を用いると、数量の関係を式で一般的かつ簡潔に表せることよさに気づき、学習に用いようとする。
合同という観点から、図形の形や大きさを決める要素について考え、図形の性質としてまとめたり統合的に捉えたりすることができる。	【数学的な考え方】	文字にいろいろな数を当てはめられることをもとに、数量の関係を文字を用いた式で表すことの簡潔さや一般性について考える。
必要な、対応する辺の長さや角の大きさを用いて、合同な図形を弁別したりかいたりすることができる。	【技能】	数量の関係を、文字を用いて式に表したり、式から具体的な場面に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすることができる。
図形の合同の意味や合同な性質について理解する。	【知識・理解】	数量の関係を、言葉や□、○などの代わりに、文字を用いて式に表すことを理解する。

3 単元について

(1) 教材観（略）

(2) 児童の実態（略）

(3) 指導観（略）

4 学校課題との関連（略）

5 人権教育との関連（略）

6 指導・評価計画

【第5学年】形も大きさも同じ図形を調べよう 本時 5/10

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 合同な図形 8時間			
1	○「合同」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた三角形、四角形と形も大きさも同じ図形を見付ける。</li> <li>用語「合同」の意味を知る。</li> <li>四角形を裏返して重ね合わせることができるかどうかを調べる。</li> <li>身の回りで合同な形をしたものを見付ける。</li> </ul>	<p><b>関</b>形や大きさが同じ図形に関心を持ち、合同な図形の調べ方を工夫して考えようとしている。</p> <p><b>知</b>裏返してぴったり重なる場合も含めて、合同の意味を理解している。</p>
2	○頂点、辺、角について「対応する」の意味を知り、合同な図形の性質について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同な図形について、重なり合う頂点、辺、角を調べる。</li> <li>用語「対応する」の意味を知る。</li> <li>合同な図形の性質をまとめ、それを用いて合同かどうかを判別する。</li> </ul>	<p><b>考</b>対応する辺の長さや角の大きさに着目して、合同な図形の性質について考え、説明している。</p> <p><b>知</b>合同な図形は対応する辺の長さ、角の大きさが等しいことを理解している。</p>
3	○平行四辺形やひし形、長方形、正方形を対角線で分割してできた三角形は合同であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>台形や平行四辺形など、これまで学習した四角形を1本の対角線で分割するとどのような三角形ができるか考える。</li> <li>分割してできた三角形について、合同であるかどうか調べる。</li> <li>同じようにして、2本の対角線で分割したときの三角形について、合同であるかどうか調べる。</li> <li>「算数新発見！」を読み、たこ形も対角線で分割すると合同な三角形ができることを理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b>平行四辺形やひし形、長方形、正方形は、対角線のひき方に関係なく、分割してできた三角形は合同であることを理解している。</p>
4・5本時	○合同な三角形をかくのに、全ての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形をかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の構成要素に着目して、合同な三角形のかき方を考える。</li> <li>頂点Aの位置の決め方について考える。</li> </ul>	<p><b>考</b>合同な三角形のかき方を考え、どの辺の長さや角の大きさを使ってかいたかを説明している。</p> <p><b>技</b>合同な三角形をかくことができる。</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>二辺夾角、二角夾辺、三辺のかき方で合同な三角形をかく。</li> <li>それぞれのかき方でどの辺や角を使っているかを整理し、全ての構成要素を使わなくても合同な三角形がかけられることをおさえる。</li> </ul>	<p><b>知</b>全ての構成要素を使わなくても、合同な三角形がかけられることを理解している。</p>
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>適用問題に取り組む。</li> </ul>	

8	○三角形との形と大きさが決まる要素の違いをおさえ、合同な平行四辺形のかき方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同な三角形のかき方をもとに、合同な平行四辺形のかき方を考える。</li> <li>三角形の場合と異なり、四つの辺の長さだけでは、形が決まらずかけないことを知る。</li> </ul>	<p><b>考</b>合同な三角形のかき方をもとに、合同な平行四辺形のかき方を考え、説明している。</p> <p><b>技</b>対角線で二つの三角形に分けて考えて、合同な平行四辺形をかくことができる。</p>
まとめ 2時間			
9	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	<b>技</b> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	<b>知</b> 基本的な学習内容を身に付けている。

【第6学年】文字を使って式に表そう 本時 4 / 5

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 文字と式 3時間			
1	○数量の大きさを、文字 $x$ を用いた式で一般的に表すことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅 5 cm のテープの長さ <math>\square</math> cm のときの長方形の面積を式に表す。</li> <li><math>\square</math> の代わりに、文字 <math>x</math> を使って式に表すことを知る。</li> <li><math>x</math> に数値を代入して、式の値を求める。</li> <li>面積が <math>135\text{cm}^2</math> になるときの <math>x</math> の値を求める。</li> </ul>	<p><b>関</b><math>\square</math> の代わりに、<math>x</math> などの文字を用いて数量の大きさを式で一般的に表そうとしている。</p> <p><b>技</b>文字 <math>x</math> に数を当てはめて、値を調べたり、値から <math>x</math> を調べたりすることができる。</p>
2	○数量の関係を、文字 $x$ 、 $y$ を用いた式で一般的に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>円の直径の長さを <math>\square</math> cm、円周の長さを <math>\bigcirc</math> cm として、この関係を式に表す。</li> <li><math>\square</math> や <math>\bigcirc</math> の代わりに、文字 <math>x</math>、<math>y</math> を使って式に表すことを知る。</li> <li><math>x</math> に数値を代入して、<math>y</math> の値を求める。</li> <li><math>y</math> に数値を代入して、<math>x</math> の値を求める。</li> <li><math>x</math>、<math>y</math> を使って具体的な場面を式に表す。</li> </ul>	<p><b>技</b>数量の関係を文字を用いて式に表すことができる。</p> <p><b>知</b>数量の関係を、<math>x</math> や <math>y</math> などの文字を用いて式に表すことを理解している。</p>
3 ・ 4 本時	○ $x$ 、 $y$ を用いて表された式から、具体的な場面をつくり、言葉や図で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>20 + x = y</math>、<math>20 - x = y</math>、<math>20 \times x = y</math>、<math>20 \div x = y</math> の式を見て、具体的な場面をつくり、言葉や図で表す。</li> <li>上記の式にある 20 を他の数に変えて、いろいろな場面をつくる。</li> </ul>	<p><b>考</b>一つの式からいろいろな具体的な場面をつくることを通して、文字を用いた式の一般性について考えている。</p> <p><b>技</b><math>x</math>、<math>y</math> を用いて表された式から、具体的な場面をつくることができる。</p>

まとめ 1時間		
5	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。 知基本的な学習内容を身に付けている。

7 本時の指導

授業デザイン(第5・6学年算数)

実施日	平成 年 月 日 ( ) 校時	指導者	
単元名	第5学年 形も大きさも同じ図形を調べよう(5/10) 第6学年 文字を使って式に表そう(4/5)	児童	第5学年 名(男子 名、女子 名) 第6学年 名(男子 名、女子 名)
	第5学年		第6学年
本時の目標	合同な三角形をかくのに、全ての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形をかくことができる。		x、yを用いて表された式から、具体的な場面を言葉や図で表すことができる。
評価	合同な三角形をかくのに、全ての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形をかくことができたか。		x、yを用いて表された式から、具体的な場面を言葉や図で表すことができたか。
人権教育の視点	・自分の思いや考えを伝えるとともに、友達の考えも生かしながら問題解決に向かい(実践力)、自分の考えを深められるようにする。(感受性)		
生かした児童(略)			

第5学年			T1 の位 置	第6学年		
形態 時間	支援を必要とする子供の姿 と支援等	主な学習活動		主な学習活動	支援を必要とする子供の姿 と支援等	形態 時間
一斉 3分	○題意の読み取りに困難を抱えている。 →個別での読み取り後、全体でも確認。	1. 学習課題、本時のめあてを確認する。		1. 前時の復習(プリント)	○思考が止まってしまっている児童 →友達の考えを見たり聞いたりすることで、本人の思考につなげたい。 →前時までのノートや教科書を参考にすることで思考につなげる。 →T2による支援	個人 グループ 全体 3分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ④ 下の三角形ABCと合同な三角形のかき方を考えましょう。         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           ◎「2辺1角」「1辺2角」を使って合同な図形をかく方法を考え、必要な条件を見付けよう         </div>						

個人 グループ 全体 2.5分	○思考が止まってしまっている児童 →友達の考えを見たり聞いたりすることで、本人の思考につなげたい。 →前時までのノートや教科書を参考にすることで思考につなげる。 →T2による支援	2. 「2辺1角」「1辺2角」の条件に絞って、合同な三角形をかく。		2. 学習課題、本時のめあてを確認する。	○題意の読み取りに困難を抱えている。 →個別での読み取り後、全体でも確認。	一斉 3分
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>③</b> 次の式に表される場面について考えましょう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>㊦</b> 場面にあった式を正確に選ぶためには、どんな図をかくとよいか考えよう。 </div>		
				3. 場面に合った式を正確に選ぶためには、どのような図をかくとよいか考える。	○思考が止まってしまっている児童 →友達の考えを見たり聞いたりすることで、本人の思考につなげたい。 →前時までのノートや教科書を参考にすることで思考につなげる。 →T2による支援 ○図ではなく絵をかいてしまう。 →絵よりも図の方が簡単に短時間でかくことができることを思い出させる。	個人 グループ 全体 2.4分
一斉 5分	○合同と相似(拡大図・縮図)の違いに対する理解が困難である。 →大きさの違う三角定規を実際に当てて確かめることで、より実感できるようにする。	3. 「3角」は合同な三角形をかく条件として適切ではないことを理解する。		4. (ジャンプ課題) 図から問題を考え、立式をする。	○思考が止まってしまっている児童 →友達の考えを見たり聞いたりすることで、本人の思考につなげたい。	個人 グループ 全体 1.0分
個人 グループ 全体 7分	○条件を調べることに執着してしまう。 →最低限の条件が揃えば、合同な三角形をかくことができることを思い出させる。	4. 適用問題に取り組む。				
個人 5分		5. 振り返り		5. 振り返り		個人 5分
子供たちがねらいを達成したかどうかを判断する具体的な内容						
第5学年			第6学年			

●合同な三角形をかくためには三つのどんな条件が分かればよいか理解している。

(振り返りの記述において)

→「六つ全ての条件が分からなくても、必要な条件が分かれば合同な三角形をかくことができる」

→「合同な三角形をかくには『3辺』『2辺とその間の角』『1辺とその両はしの角』が分かれば、ほかの条件はいらない」

→「『三つの角』が分かっても合同な三角はかけない、ということは、合同な図形をかくためには辺の長さが大切なかもしれない」

●図をかくことで場面に合った式を正確に選ぶことができることを理解している。

(振り返りの記述において)

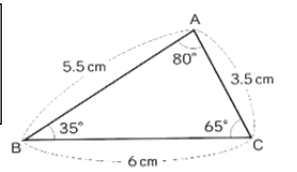
→「場面と合う式を選べたとしても、図をかくことで自分の考えが正しいか確認することができることが分かった」

→「場面と合う式が選べないときは、簡単な図をかくとよい」

→「場面を図に表すことで、文字(x、y)と数の関係が分かりやすくなる」

板書計画

【第5学年】 固定黒板

<p>右の三角形ABCと合同な三角形のかき方を考えましょう。</p>	<p>前グループ ② 名前</p>	<p>後グループ ② 名前</p>	
<p>㊦残りの条件を使って合同な図形をかく方法を考え、使える条件を見付けよう。</p>		<p>前グループ ③ 名前</p>	<p>後グループ ③ 名前</p>
<p>表</p>	<p>㊦ ・合同な三角形をかくためには？ ・分かったこと、気が付いたこと</p>		

【第6学年】 移動黒板

<p>次の式に表される場面について考えましょう。</p>	<p>㊦ ・場面に合った式をより正確に選んだり、立てたりするには？ ・分かったこと、気が付いたこと</p>			
<p>㊦場面にあった式を正確に選ぶためには、どんな図をかくとよいか考えよ</p>	<p>① 20円のあめとx円のジュースをy円分買います。代金はy円です。</p>	<p>② 面積が20㎡の長方形があります。たての長さがxcmの時、横の長さはycmです。</p>	<p>③ 折り紙が20枚あります。x枚使うと、残りはy枚です。</p>	<p>④ 底辺が20cmで、高さがycmの平行四辺形の面積はym㎡です。</p>
<p>児童の考え</p>				
<p>ジャンプの課題①</p>		<p>ジャンプの課題②</p>		



・【指導事例 2（同単元同内容同程度指導事例）】

第 3・4 学年道徳科学習指導案

- 1 主題名 わたしもあなたもいい気持ち B 礼儀
- 2 教材名 「おもいがけないあいさつ」（出典：みんなの道徳 4 年 学研）
- 3 主題設定の理由
  - (1) ねらいとする価値について（略）
  - (2) 児童の実態（略）
  - (3) 教材について（略）
- 4 学校課題との関連（略）
- 5 本時の指導
  - (1) ねらい  
 挨拶する側とされる側の気持ちが通じ合ううれしくなるような挨拶が礼儀正しい挨拶であることに気づき、周囲の人にも真心を込めた挨拶をしていきたいという気持ちを高める。
  - (2) 人権教育の視点
    - ・人の言動に左右されたり偏見をもったりしないで、自分の心に誠実に明るく生活しようとする心情を養う。（判断力）
    - ・自分と他の人の考え方や意見の違いに気付くとともに、認め合うことができる。（技能）
  - (3) 生かしたい児童（略）
  - (4) 展開

発問 学習活動 ・児童の表れ	時間形態	教師の支援 留意点
1 事前アンケートをもとに礼儀正しい挨拶について考える。 礼儀正しい挨拶とはどのような挨拶だろう。	全体  個人 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートをもとに礼儀の価値について考える。</li> <li>・グラフにネームプレートを貼り、意欲を高める。</li> </ul>
2 教材を読み、礼儀正しい挨拶について話し合う。 (1) 挨拶された父とゆきおの気持ちを考える。 ・父：当たり前なのにうれしい。 ・父：礼儀正しくされてうれしい。 ・ゆ：ぼくたちが言う側なのに。 ・ゆ：ありがとうって言われてうれしい。 ・女子高生・野球少年：譲ってくれてありがとう。 (2) ゆきおがした挨拶について話し合う。 おばあさんはどうしてうれしそうに「すてきなあいさつだね。」と言ってくれたのだろう。 ・優しい声で言ったんじゃないかな。 ・おばあさんの方を向いて挨拶したからだと思う。 ・聞こえやすい声の大きさだったと思う。 ・ゆきおの気持ちが伝わったんだと思うよ。 ・「おばあさん」と言ってくれたからうれしかった。 ・両方ないとだめだと思う。 ・相手の顔を見ながら「ありがとう」と言えば伝わるし相手もうれしい。 ・気持ちを込めたら優しい声になると思う。 ・思いやりの気持ちがあれば、相手の方を向いたり、優しい声になったりすると思う。 礼儀正しい挨拶とはどのような挨拶だろう。 ・自分の気持ちが相手に伝わるような挨拶 ・ありがとうの気持ちを込めたり、相手をしっかり見たりする挨拶 ・自分も相手もうれしくなる挨拶	個人 全体       グループ 個人   全体   全体 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀正しくした側の気持ちも考えさせることでお互いがうれしい気持ちになったことに気付くようにする。</li> <li>・板書に笑顔の絵を掲示することで視覚的に理解できるようにする。</li> <li>・考えを小グループで話した後、ワークシートに考えを記入する。</li> <li>・3・4年生がグループ活動を共に行うことによって、様々な価値観に触れられるようにする。</li> <li>・ゆきおの気持ちに迫る児童には、どんな気持ちか問い返すことで相手を思いやる気持ちに児童が気付くようにする。</li> <li>・おばあさんとゆきおの笑顔を掲示することでお互いの気持ちが通じ合う挨拶をすると自分も相手もうれしい気持ちになることが視覚的に理解できるようにする。</li> </ul>

<p>3 本時の学習を振り返る</p> <p>(1) ワークシートに感想を記載する。</p> <p>(2) バスの運転手さんや公仕の先生のインタビュー音声を流し、今までの生活を振り返ったり、これからの生活について思いを馳せる。</p>	<p>個人</p> <p>5分</p> <p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年〇〇には話を聞きながら書く内容を整理することでこれからの意欲につなげる。</li> <li>・ 音声のみにすることで児童が自分の姿を振り返ったり想像したりできるようにする。</li> </ul>
---	-------------------------------	--

子供たちがねらいを達成したかどうかを判断する具体的な内容

<p>第4学年</p> <p>(振り返りの記述において)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に自分の気持ちが伝わる挨拶をすることが大切だと思った。明日からしていきたいな。</li> <li>・相手のことを思って挨拶すれば自分も相手もうれしい。だからぼくもやってみたい。</li> </ul>	<p>第3学年</p> <p>(振り返りの記述において)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も相手もうれしくなるような挨拶をこれからしていきたいと思った。</li> <li>・礼儀正しく挨拶すると自分も相手もうれしくなると分かった。</li> </ul>
--	--

(2) 平成29年度複式学級新任教員研究会 研究授業指導案（矢板市立西小学校）

・【指導事例3（同単元同内容異程度指導事例）】

第3・4・5学年体育科学習指導案

1 単元名 プレルボール

2 単元の目標

【第3・4学年】

・きまりを守り、仲間と協力して安全に運動に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)

・楽しく運動するための活動を工夫したり、ゲームで簡単な作戦を立てたりすることができる。

(思考・判断)

・ラリーを続けたり、ボールをつないだりして簡単なゲームを行うことができる。(運動の技能)

【第5学年】

・ルールを守り、互いに励まし合い、教え合いながら、協力して練習やゲームができるようにする。

(関心・意欲・態度)

・チームに適しためあてをもち、攻撃と防御を工夫しながら、練習やゲームをすることができる。

(思考・判断)

・サーブ、パス、アタックの技能を身に付け、連係プレーによる攻撃をゲームに生かすことができる。

(運動の技能)

3 単元の指導について

(1) 教材観 (略)

(2) 児童の実態 (略)

4 学校教育目標との関連 (略)

5 人権教育との関連 (略)

6 指導計画及び評価計画

【第3・4学年】(10時間扱い)

時	本時の目標	学習活動	観 点	評 価 規 準		努力を要すると判断される状況の児童への支援・援助
				十分満足できると判断される状況	おおむね満足できると判断される状況 【評価方法】	
1 本 時	ゲームの方法やルールを確かめ、試しのゲームをすることができる。	プレルボールのゲームの方法やルールを確かめ、試しのゲームをする。	関 ・ 意 ・ 態	基本的なルールを確かめ、プレルボールを楽しもうとする気持ちをもっている。	プレルボールを楽しもうとする気持ちをもっている。 【観察、学習カード】	基本的なルールを確かめるため、解説をしながら試技を見せるようにする。
2 3	プレルボールでゲームを行うための基本的なプレーを身に付けることができる。	ボールの打ち方を理解し、練習する。	技 能	ひざや腕の使い方を意識しながらボール操作ができる。	状況に応じてボールを操作できる。 【観察、学習カード】	スモールステップを設け、少しの伸びでも達成感が味わえるようにする。

4 5	ボールつきを ・友達と楽しん だり、工夫し たりする。	・チームを決 め練習する。 ・パス練習。	思 ・判	ボールの動きを理 解した上で、次の プレーヤーがボー ルを操作しやすい よう球出しができ る。	ボールの動きを理 解することができ る。 【観察、学習カード】	どのようにパスを したら相手が打ち やすいか身をもっ て体験させ、考え させる。
6 7 8	チームで協力 ・して、ゲーム を楽しむこと ができる。	・練習計画に 沿って各グル ープの課題を 練習する。 ・ゲームをす る。	技 能	ラリーを続けた り、ボールをつな いだりして簡単な ゲームを行うこと ができる。	連係プレーを生か した練習をするこ とができる。 【観察、学習カード】	それぞれのポジシ ョンの役割を具体 的にアドバイスす る。
			関 ・意 ・態	互いに励まし合い ラリーを続けた り、ボールをつな いだりして簡単な ゲームを楽しんで いる。	ラリーを続けたり、 ボールをつないだ りして、ゲームを 楽しんでいる。【観 察、学習カード】	あわてずにゆっく り動き、できるだ け正確にボールを 操作できるように 声をかける。
9 10	作戦を立てて ・ゲームをす ることができる。	作戦を立てて ゲームをす る。	思 ・判	より楽しく運動す るために、簡単な 作戦を立ててゲー ムに取り組むこと ができる。	簡単な作戦を立て てゲームに取り組 むことができる。 【観察、学習カード】	能力に応じてハン デが付けられるよ うな簡単なルール を設けて行うよう にする。

【第5学年】（7時間扱い）

時	本時の目標	学習活動	観 点	評 価 規 準		努力を要すると判 断される状況の児 童への支援・援助
				十分満足できると 判断される状況	おおむね満足でき ると判断される状 況 【評価方法】	
1 本 時	リーダーシッ プをとりなが らゲームの方 法やルールを 確かめ、手本 を見せながら 試しの試合を することができる。	プレルボール のゲームの方 法やルールを 確かめ、試し の試合をす る。	関 ・意 ・態	ゲームのルールを 解説したり、プレ ーの仕方を教えた りしながら、チー ムでの練習を楽し んでいる。	基本的なルールや ゲームの方法を教 えながら、チーム での練習を楽しん でいる。 【観察、学習カード】	基本的なルールを 確かめさせる。
2	サーブ、パ ス、アタッ	サーブ、パ ス、アタッ	技 能	ひざや腕の使い方 を意識しながらボ	状況に応じてボー ルを操作できる。	スモールステップ を設け、達成感が

	クなど基本的なプレーを身に付けることができる。	クなど基本的なプレーを練習する。		ール操作ができる。	【観察、学習カード】	味わえるようにする。
3	チームごとに工夫して練習することができる。	・チームを決め練習する。 ・パス練習。	思 ・判	各ポジションの役割を確認しながら、ボールの動きを理解した上で、次のプレーヤーがボールを操作しやすいよう球出しができる。	ボールの動きを理解した上で、次のプレーヤーがボールを操作しやすいよう球出しができる。 【観察、学習カード】	次のプレーヤーにどのようなパスをしたら打ちやすいか考えさせる。
4	攻撃や防御を工夫して、ゲームができる。	簡単なルールを決めゲームを行う。	技 能	各ポジションの役割を果たしながら、連係プレーを生かした練習をすることができる。	連係プレーを生かした練習をすることができる。 【観察、学習カード】	それぞれのポジションの役割を具体的にアドバイスする。
5	チームで協力して、練習やゲームを楽しむことができる。	・練習計画に沿って各グループの課題を練習する。 ・ゲームをする。	関 ・意 ・態	互いに励まし合い教え合いながら、練習やゲームを楽しんでいる。	ラリーを続けたり、ボールをつないだりして、ゲームを楽しんでいる。【観察、学習カード】	あわてずにゆっくり動き、できるだけ正確にボールを操作できるように声をかける。
6 7	作戦を立ててゲームをすることができる。	作戦を立ててゲームをする。	思 ・判	プレルボールの特性を活かして、作戦を立ててゲームに取り組むことができる。	チームで作戦を立てて、ゲームに取り組むことができる。 【観察、学習カード】	作戦に合う動き方を考えさせたり、助言したりする。

※ 第3、4学年と第5学年の時数の扱いについては、標準時数が異なるため、第3、4学年は1学期に週当たりの体育の時数を第5学年よりも0.5時間多く取り、第3、4学年だけで行う体育の時間を設定している。本単元も技能の基礎的な内容を扱う時間には、第3、4学年だけで授業を行う計画である。

## 7 本時の指導

(1) 題材名 プレルボール

(2) ねらい 第3・4学年：ゲームの方法やルールを確かめ、試しのゲームをすることができる。  
第5学年：リーダーシップをとりながら、ゲームの方法やルールを確かめ、練習をすることができる。

(3) 人権教育の視点

友達と互いに協力しあって運動したり、練習したりする活動を通して「感受性」育成につなげていきたい。

(4) 生かしたい児童（略）

具体目標	形態(分)	学習活動	指導上の留意点	具体の評価基準	資料・準備
1 ウォーミングアップができる。	一斉 (5)	ウォーミングアップをする。 ・準備運動をする。	健康観察をする。 ・各運動のポイントをおさえる。		めめて提示用紙 学習カード
2 本時のめあてと自分の課題をつかむことができる。	一斉 (3) ⑤	本時のめあてをつかむ。 【第3・4学年】 ゲームの方法やルールを確かめ、試しのゲームをするこ とができる。 【第5学年】 リーダーシップをとりながらゲームの方法やルールを確 かめ、手本を見せながら試しの試合をすることができる。	今日の学習のめあてを確認する。		
3 ルールの確認をすることができ る。	一斉 (5)	第4、5学年の児童が見本のゲームを行い、第3学年の 児童はそれを見てプレルボールのルールを知る。	ルールがしつかりと守れているかどうか確認する。 ・4、5年のゲームを見せながら解説をし、3年生にル ールを理解させるようにする。	【第5学年】 (関心・意欲・態度) A：ゲームのルールを 解説したり、プレーの 仕方を教えたりしなが ら、チームでの練習を 楽しんでいる。 B：基本的なルールや ゲームの方法を教えな がら、チームでの練習 を楽しんでいる。 【観察、学習カード】	ソフトボ ール8個 ルールの掲 示物
4 2組に分かれてパスと サーブの練習をすること ができる。	グルーブ (12) ⑤	2組に分かれてコートを使って練習する。 ・パス練習 ・サーブ練習 【第5学年】 【A：十分に満足できると判断される状況の児童の反応】 ・ルールを解説したり、プレーの仕方を教えたり、手本を 見せたりしながら練習している。 【B：おおむね満足できると判断される状況の児童の反応】 ・パス、サーブの仕方を教えながら練習している。 【C：おおむね満足できる状況に達していない児童の反応】 ・チームに関わらず、自分だけの練習になっている。	◎友達と声をかけ合っ て練習するよう促す。 ・ねらったところにパ スやサーブするよう促 す。 ・T1：全体を見て、必 要に応じて個別に指導 。T2：A コート の支援、指導。T3：B コートの支援、指導。 【Aに対する支援】 ・他にもアドバイスの 必要ないか確認させる 。 【Bに対する支援】 ・必要に応じて手本を 見せたり、ルールの解 説をするよう促す。 【Cに対する支援】 ・アドバイスの必要 ない児童に支援するよ うに促す。		
5 プレルボールを楽しむ ことができる。	グルーブ (15) ⑤	試しのゲームをする 【第3・4学年】 【A：十分に満足できると判断される状況の児童の反応】 ・基本的なルールを確 かめ、プレルボールを 楽しむもうとす る気持ちをもってゲ ームをしている。 【B：おおむね満足できると判断される状況の児童の反応】 ・プレルボールを楽 しもうとする気持ち をもってゲームを している。 【C：おおむね満足できると判断される状況に達して いない児童の反応】 ・プレルボールを楽 しめない。	◎友達と声をかけ合っ てゲームをするよう 支援する。 ・T1：全体を見て適 宜指導をする。T2： Aコート審判 兼得点。T3：B コートの審判兼得点。 【Aに対する支援】 ・基本的なルールが理 解されているか、状 況に応じて適宜解説 をする。 【Bに対する支援】 ・いいプレーや頑張 っている様子を褒め 、やる気を鼓舞す る。 【Cに対する支援】 ・失敗してもいいか ら思い切ってボール に触れるよう促 し、少しでも大き く褒める。	【第3・4学年】 (関心・意欲・態度) A：基本的なルールを 確かめ、プレルボ ールを楽しむとす る気持ちをもって いる。 B：プレルボ ールを楽しむ とする気持ち をもって いる。 【観察、学習カード】	ボール2個
6 本時の学習を振り返 ることができる。	個人 (5) ⑤	本時の学習を振り返り、学習カードに記入する。	健康観察をする。 ・落ち着いて振り返 りに入れるように する。 ・ルールについて知 り、守ることが できたか、また プレルボールを 楽しむことが できたか確認す る。		学習カード

(3) 平成 28 年度複式学級新任教員研究会 研究授業指導案（壬生町立藤井小学校）

・【指導事例 4（同単元同内容異程度指導事例）】

第 1・2 学年 生活科学習指導案

1 単元名 みんなでつくろう「ふじまつり」

2 単元の見どころ

これまでに体験した行事や見聞きした行事を参考に、友達と協力して、自分たちで行事の企画、準備を工夫して行い、お世話になった地域の人や、家の人を学校に招待して、みんなでおまつりを楽しむことができる。

3 単元について

(1) 教材観 (略)

(2) 児童の実態 (略)

4 学校課題との関連 (略)

5 人権教育との関連 (略)

6 単元の指導・評価計画 (全 20 時間)

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法
1 六 ・ 七 月	1 本 時 3	「けいかくを たてよう」(本時 1/3) ・ 昨年の「ふじまつり」から、内容や様子を 確認し、どのようなおまつりにしたいか考 える。 ・ 「ふじまつり」に招待する人に見せたい 物や、やってあげたいことを相談してプロ グラムを決める。 ・ 「ふじまつり」を行うために必要な準備 について話し合い、仕事の分担を決める。	(関) 楽しいおまつりにしようという気持ちをもつ ことができる。 【ワークシート・発言・行動】 (関) 楽しいおまつりにするために、進んで計画を立 てようとしている。【ワークシート・発言・つぶやき】 (思) みんなが楽しめるようなおまつりにするために、 会の内容や準備することを考えることができる。 【ワークシート・発言】 (気) これまでの活動を通してお世話になった人や仲 良くなった人を招待するとよいことに気付いている。 【発言・つぶやき】
2 九 月 か ら	4 14	「じゅんぴを しよう」 ・ 班ごとに分かれて、遊びに必要な物を準備 したり作ったりする。 ・ 準備した物を使って発表の練習をしたり、 遊び方の工夫をしたりする。 ・ 飾り付けや各コーナーの設置など、会場の 準備をする。	(関) 材料を用意したり制作方法を調べたりして、お まつりに必要な物や作品を、友達と協力して準備しよ うとしている。 【つぶやき・行動】 (思) 準備物や作品を工夫して作ったり、発表の仕方 や遊び方を工夫したりすることができる。 【つぶやき・行動・作品】 (気) 発表の仕方や遊び方を助言し合う中で、友達 のよさに気付いている。 【発言・つぶやき】
3 十 一 月	15 17	「おまつりを たのしもう」 ・ おまつりの会場を準備し、招待した人を 前にして、会をオープンする。 ・ 計画に従って、出し物を発表し、それぞ れのお店屋さんを開く。	(関) 招待した人や友達といっしょに、楽しいおまつ りにしようとして進んで活動に取り組んでいる。 【つぶやき・行動】 (思) 招待した人や友達を楽しめるように、おまつり の進め方や出し物の演じ方、遊び方などを工夫するこ とができる。 【発言・つぶやき・行動】 (気) 友達と出し物の演じ方や遊び方を助言し合う中 で、友達のよさに気付いている。 【つぶやき・行動】
4 十 一 月	18 20	「おいを しよう」 ・ 自分たちがおまつりでできたことを振り 返る。 ・ 招待した人にお礼の手紙を書いて届ける。	(関) おまつりのことを振り返り、来てくれた人に感 謝の気持ちを伝えようとしている。【発言・つぶやき】 (気) 来てくれた人に感謝することの大切さに気付い ている。 【発言・手紙】

7 本時の指導

(1) 目標

- ・ 「ふじいまつり」について知り、楽しいおまつりにしようという気持ちをもつことができる。(第1学年)
- ・ 昨年の「ふじいまつり」を想起し、第1学年の児童に教えながら、楽しいおまつりにしようという気持ちをもつことができる。(第2学年) (関心・意欲・態度)

(2) 人権教育の視点

- ・ 互いに意見や考えを交流し合う活動を通して、自分の考えを深めることができる。(実践力)
- ・ 第2学年の児童は第1学年の児童に対して優しく教えてあげることができる。(技能)

(3) 生かしたい児童 (略)

(4) 展開

(◎学校課題との関連 ☆支援 ♡人権教育上の配慮 ◇評価) □□□第1・2学年共通

時間	学習活動	支援と評価		資料・準備
		第1学年	第2学年	
5分	1 本時のめあてを確認する。	○昨年の「ふじいまつり」の看板を見せたり (T1)、音楽を流したり (T2) することで、「ふじいまつり」に関心をもたせる。	○昨年の「ふじいまつり」の看板を見せたり (T1)、音楽を流したり (T2) することで、今年もまた「ふじいまつり」をやりたいという気持ちをもたせる。	看板 CD
20分	2 昨年の「ふじいまつり」の様子を確認する。	めあて どんな「ふじいまつり」にしたいか かんがえよう	○昨年の「ふじいまつり」の楽しかった様子がよくわかるように、DVD・写真・はっぴ・作った物などを提示する。(T1・T2) ○昨年の「ふじいまつり」についてのクイズを出し、第1学年の児童に答えさせ、第2学年の児童に解説させ (T1) ながら内容を表にまとめ (T2)、様子がわかりやすいようにする。	大型テレビ パソコン DVD 写真 はっぴ 昨年作ったおもちゃ等表
15分	3 どんな「ふじいまつり」にしたいか話し合う。	☆はっぴを着せたり、昨年作ったおもちゃなどに触らせたりして、興味をもたせる。(T2)	☆思い出せない児童には、自分が担当したお店屋さんについて話しをさせる。(T1) ♡昨年経験した「ふじいまつり」の様子や感想を、1年生にもわかる言葉で、くわしく教えるようにさせる。	ワークシート 日記帳 写真
	① 自分の考えをワークシートに書く。 ② 発表する。	◎☆自分で書けないときは、教師が聞きながら書く。言葉にできないときは、表の写真を参考にさせる。(T2)	○昨年書いた、「ふじいまつり」の日記から、昨年抱いた今年の「ふじいまつり」への意気込みを思い出させる。(T1) ○昨年、「来年は僕たちが中心になってがんばります。」と言ったことを写真から思い出させ、2年生として、1年生をリード	



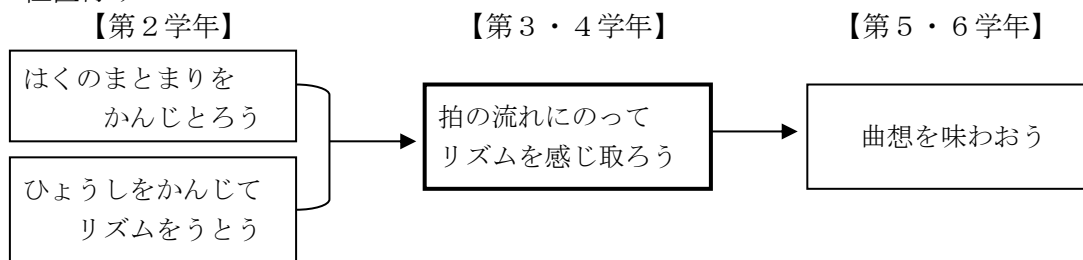
5分	4 振り返りを行い、次時の学習への課題をもつ。	<p>◇「ふじいまつり」について知り、楽しいおまつりにしようという気持ちをもつことができた。</p> <p>(関心・意欲・態度) 【発言・行動】</p>	<p>していこうという気持ちをもたせる。(T1)</p> <p>◇昨年の「ふじいまつり」を想起し、1年生に教えてあげながら、楽しいおまつりにしようという気持ちをもつことができた。</p> <p>(関心・意欲・態度) 【ワークシート・発言・行動】</p>	
		<p>○振り返りをさせた後、次時は内容や準備することを考えることを伝え、活動への意欲につなげる。(T1)</p>		

(4) 平成 27 年度複式学級新担任教員研究会 研究授業指導案（鹿沼市立粕尾小学校）

・【指導事例 5（同単元同内容同程度指導事例）】

第 3・4 学年 音楽科学習指導案

- 1 単元名 拍の流れにのってリズムを感じ取ろう
- 2 単元の目標
  - 拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって表現する。  
(音楽的な感受や表現の工夫)
  - リズムの組み合わせを工夫したり、反復・問いと答え・変化などの音楽の仕組みを生かしたりして言葉のリズムアンサンブルをつくる。  
(表現の技能)
- 3 単元について
  - (1) 教材観（略）
  - (2) 児童の実態（略）
  - (3) 指導観（略）
- 4 学校課題との関連（略）
- 5 人権教育との関連（略）
- 6 単元の位置付け



7 単元の指導・評価計画（全8時間）

次	時間	学 習 活 動	教材名	具体的評価規準
一	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">拍の流れにのって、歌と打楽器を合わせて演奏する。</div> ○打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴く。	・いろんな木の実 ・ブラジル	【関・鑑】 打楽器の音色やリズムと旋律の重なりが生み出す曲想を感じ取りながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。 【行動観察・発言内容】
	2 本時	○旋律の特徴や打楽器のリズム伴奏のおもしろさを感じ取りながら歌う。		【関】 リズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。 【表情観察・行動観察・発言内容】
	3	○歌と打楽器を合わせて拍の流れにのって演奏する。		【技】 友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れにのって、リズム伴奏を演奏している。 【演奏聴取】
二	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くり返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくる。</div> ○4文字の言葉のリズムを拡大したり縮小したりして、リズムをつくることに興味・関心をもつ。 ○二つのパートに分かれ、反復・問いと答え・変化を使って8小節のリズムアンサンブルをつくる。	・言葉でリズムアンサンブル	【関】 言葉のリズムやその組合せに興味・関心をもち、友達とリズムアンサンブルをつくる活動に進んで取り組もうとしている。 【発言内容・行動観察】

	5	○グループのリズムアンサンブルをつくる。		【創】言葉のもつリズムを聴き取り、拍の流れを感じ取りながらリズムを拡大・縮小して組み合わせ、反復・問いと答え・変化などを生かしたリズムアンサンブルをつくり、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。【行動観察・発言内容・演奏聴取】 【技】リズムの特徴を理解して、拍の流れにのって、反復・問いと答え・変化などを生かしたリズムアンサンブルをつくっている。【演奏聴取】
三	6	歌詞から情景を思いうかべて、のびやかな声で歌う。 ○歌詞を理解し、情景を想像しながら歌う。 ○発声や発音などに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌う。	・まきばの朝	【技】発声や発音・フレーズに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌っている。【演奏聴取】
四	7	8分の6拍子を感じながら歌う。 ○曲想をつかみ、8分の6拍子の特徴を感じ取る。 ○8分の6拍子の拍の流れを感じ取りながら歌う。	・風のメロディー	【関】8分の6拍子の特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【表情観察・行動観察】
	8	○旋律の音の動きを感じ取り拍の流れにのって歌う。 ○強弱記号を知り、歌い方を工夫する。		【創】リズムやフレーズを聴き取り、拍子感や強弱の変曲の山を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。【演奏聴取、発言内容、楽譜への記述内容】 【技】発声や発音などに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌っている。【演奏聴取】

#### 8 本時の指導 (本時 2/8)

- (1) 単元名 拍の流れにのってリズムを感じ取ろう (おもな使用教材：いろいろな木の実)
- (2) 目標 旋律の特徴や打楽器のリズム伴奏のおもしろさを感じ取りながら歌うことができる。
- (3) 人権教育の視点
  - ・互いに意見や考えを交流し合う活動を通して、自分の考えを深めることができる。 (判断力)
  - ・集団で一つの楽曲を表現する活動を通して、音楽表現の楽しさ・美しさを感じ取ることができる。 (感受性)
- (4) 生かしたい児童 (略)

## (5) 展 開

◎指導方法の工夫

※人権教育上の配慮

☆個に応じた支援方法

学習活動	形態 時間	教師の支援	関連する共通事項 【具体的評価規準】	資料 準備
1 学習の雰囲気をつくる。 ・発声練習「あくびのうた」 ・既習曲の復習 「いいことありそう」 ・リズム打ち（カリプソのリズムを意図的に導入する。）	全 7 分	○歌の基本的な姿勢を意識させる。 ・足の幅・背筋・肩の力の抜く・目線はやや上方・口形・高音部の発声など ※☆よかったところを称賛し、授業への意欲付けを図る。		
2 学習課題を確認する。 ふしの特ちょうや打楽器のリズム伴奏のおもしろさを感じ取りながら歌おう。	全 2 分	○前時に鑑賞した「ブラジル」の一部を聴かせ、打楽器の音色やおもしろさを想起させる。	・リズム	学習課題 「ブラジル」CD
3 「いろいろな木の実」のCDを聴き、気付いたことを発表する。	グ 3 分	・旋律の特徴や打楽器の音色、カリプソ特有のリズムについて特に着目させ曲の感じをつかませる。		指導用CD 拡大楽譜 映像資料 写真など
4 「いろいろな木の実」の旋律を歌う。 ・「リピート」の意味を知る。 ・旋律を歌詞唱する。 ・旋律A（1段目）と旋律B（2・3段目）の各々の特徴に合う歌い方を工夫する。 A：のんびり・ゆったり B：歯切れよく・弾むように ・Aの冒頭部分の長3度音程の練習をする。 ・旋律Aの二つの旋律を合わせ、長3度音程の基本的なハーモニーの美しさを味わわせる。 ・リズム打ちや体を自由に動かしながら曲全体を通して歌詞唱する。	全 30 分	○拡大楽譜に着色したり矢印をつけたりすることにより、リピート記号の意味や楽譜の進み方をよく確認させる。 ○AとBの表現に合ったリズム伴奏を行うことにより、それぞれの雰囲気の違いを特に意識させる。 ◎※違いを明確にして歌った後、グループで意見交換をさせ、AとBの特徴の違いや面白さなどについて感受の共有化を図る。 ◎蓋を開けたグランドピアノの周りに集合させ声の響きを聴かせることにより、A部分特有のハーモニーの美しさを実感させる。 ☆感想を意図的に指名して発言させ、自信と集中力の向上を図る。 ○拍の流れに感じ取るために、自由に体を動かしながら歌うよう教師が見本を示す。	・リピート記号 ・拍の流れ ・音の重なり 【関】リズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。 【表情観察・行動観察・発言内容】	拡大楽譜 「共通事項」提示用カード
5 次時の学習内容を知らせる。	全 3 分	○次時は1時間目に取り扱ったラテン楽器と歌を合わせて演奏を楽しむことを伝え、活動への意欲につなげる。		

〈参考文献等〉

- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）
- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編（文部科学省）
- ・ 公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（昭和33年法律第116号）
- ・ 小学校設置基準（平成14年3月29日文部科学省令第14号）
- ・ 中学校設置基準（平成14年3月29日文部科学省令第15号）
- ・ 平成26年度改訂版教科書実務ハンドブック（株式会社 教育新聞社）
- ・ 平成29年版－へき地・複式・小規模校からの発信－「ともに紡ぐ」ふるさとで心豊かに学び新しい時代を切り拓く子どもの育成（全国へき地教育研究連盟）
- ・ 平成28年版－へき地・複式・小規模校からの発信－「未来への創造」ふるさとで心豊かに学び新しい時代を切り拓く子どもの育成（全国へき地教育研究連盟）
- ・ 複式学級指導の手引き（平成27年度改訂版）（平成28年3月 島根県教育委員会）
- ・ 複式学級を有する学校のために－複式学級指導資料－（平成23年3月 宮崎県教育委員会）
- ・ 子どもの学びを支える複式授業（平成19年3月 長崎県教育センター）

VERY   
GOOD  
LOCAL  

---

とちぎ

複式学級担任の手引

発行 栃木県教育委員会事務局学校教育課  
〒 320-8501 栃木県宇都宮市塙田 1-1-20  
TEL 028-623-3392 FAX 028-623-3399